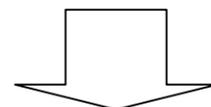


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1 年	2 年	3 年
<p>学習規律が定着し、授業に関心をもって取り組むことのできる生徒が多い。授業を聞き取り、ノートの記入に工夫のみられる生徒もいる。一部、家庭学習が習慣化していないために、漢字の読み書きなど、知識に関しての基礎学力が低い生徒や、課題の提出を十分にできない生徒もいる。自分の意見を持ち、表現することに抵抗の少ない生徒が多いが、説明の構成や表現の工夫、文法などに課題のみられる生徒もいる。物語や説明文など、様々な種類の文章に親しみ、自身の表現力を高められるようにする。</p>	<p>・ 学習意欲を持ち、積極的に発言したりノートに工夫したりする生徒もいるが、一部ではあるが提出物を出せずノートも不足という生徒もいる。学習内容の難易度が高くなるにつれ、知識・理解・読解・聞き取りなど個人差が広がってきている。そこで学習意欲向上と主体的・対話的な深い学びを目指し、学んだ基礎知識を活かした問題への取り組みや、少人数班で疑問を掘り下げ発表する活動を取り入れていく。また、様々な方法で自分の意見を表現する力も身につけていく。</p>	<p>・ 学習意欲が向上し、授業中の集中力が高まってきている。漢字テストの取り組みにも意欲的で、予習復習もしっかり取り組んでいる。授業ごとの自己評価も、観点ごとに詳しく振り返りができるようになりつつある。一方、1、2年生で学習した古文漢文の基礎知識を忘れている生徒も一部いる。基礎の振り返りを行うと同時に、様々な視点でものごとを捉え、論理的に説明することのできる深い学びにつなげていく。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の学習規律をさらに定着させ、積極的、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・ 漢字などの知識に関する基礎学力を定着させるために、繰り返しの指導が必要である。 ・ 自分の意見や感想などを発表したり作文したりする機会を多く設定することで、わかりやすく伝えるための表現力の向上を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への興味関心をもたせるために、発問や板書、学習プリントの工夫、視覚教材の活用、ICT機器の活用、ゲーム感覚で学べる学習等、単調にならない授業づくりをする。 ・ 導入時の漢字聴写テストにより、既習事項のさらなる定着を図るとともに、漢字学習への意識付けをする。さらに、繰り返し確認テストを実施する。 ・ 文章に対する自分の意見を書いたり発表したりする機会を積極的に取り入れる。その際、例や条件を提示することで、よりよい表現方法について関心をもたせ、自身の表現の中で実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材に関連のある教材を用意し、類似した事柄や発展的な事柄にも興味関心をもたせる。 ・ 課題の評価を提示し、自身の能力について自覚させ、学習意欲の向上を図る。 ・ 漢字や文法事項は確実に理解ができるように、多数の練習問題に取り組む。 ・ 読書活動に取り組みせ、語彙を豊かにさせる。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単調になりがちな授業に様々な活動を取り入れ、生徒が学習に対して興味関心をもって取り組めるように工夫する。ただし、基礎知識の確認はおろそかにできないので、授業ごとの漢字テストやその予習復習、授業のねらいの確認や自己評価は現状を保持する。 ・ 発想シートやマトリックスの使用、ブレインストーミングやバズセッション、ディベートなど様々な方法で意見を出し合う機会を作る。また、感想や考えを文章にまとめる取り組みも増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで課題設定できるよう、学習目標や題材に対してのバズセッションやブレインストーミングを行わせる。課題に対する理解を深める手立てを考えさせ、助言と実践への支援をする。学びを共有するために、ICT機器を使用し発表形態も工夫させる。 ・ “活動あって成果なし、にならないよう、何を目的とした活動なのかの意識づけを行い、基礎知識については解説の後、小テストを行うことで知識定着をはかる。漢字の予習復習も毎時確認することで、意欲向上をはかる。 ・ 発表と質問、感想を交流し、授業最後の自己評価や感想を書く活動を通して、自分の考えを表現する習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適度な時間設定や適切な難易度の課題設定に気をつけ、興味関心を持続させる。 ・ 主体的に学ぶ楽しさに気づかせ、主題や関連することからについて、授業を離れた後も興味をもてるようにする。 ・ 読書活動や情報メディアの使用を通して、より深い学びにつなげる。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に古文漢文に関して、基礎的知識を確認すると同時に、学んだ知識を応用して読み解くことができるよう、様々な視点からの読解ができるようにする。 ・ 三年間のまとめとなるよう、既習事項を確認しつつ幅広い分野のテキストに触れ、意見発表や交流を行い思考を深めることができるようにする。また、主体的、対話的な深い学びを目指し、自ら課題を設定し、調べ、考えを論理的に述べるができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典に関する基礎的知識の小テストを行い、理解度を把握し、復習する機会を設ける。複数の古文漢文に触れ、繰り返し確認を行い、歴史的仮名遣いや古語が理解できなければ解けない問題に取り組ませる。 ・ 国語便覧などを使用し、題材に関連する多数のテキストに触れる。一つの題材に対して少人数班に分かれてブレインストーミングを行い、そこから課題を見つけ、自分たちで調べ、発表させる学習を取り入れる。その際、表面的な読解で終わらないよう指導、助言していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的仮名遣いや古語は確実に理解ができるよう、問題練習に多数取り組む。 ・ 自らで課題設定を行うために、主題や作品内容、作者や時代背景、表現や関連作品まで多様な視点を持たせる。 ・ 発表することだけを重視するのではなく、他者の発表を聞くことで理解を深めさせる。疑問や感想など、積極的に交流する場面を設ける。